冥瑕九九表からきまりを見つけだして10の段を構成する活動を通して、 発展的にかけ算をとらえていこうとする興味,関心を高める

1.単元名 『かけ算九九のひょう』(2年生)

2.単元について

これまでに児童は、具体的な場面を半具体物や図に置き換える学習を通して、乗法の意味をはっき りさせてきている。さらに、乗法で成り立つ性質「乗数が1増えると積が被乗数分だけ増えること」

と「乗法の交換法則」を見いだし活用して、1~9の段の九九を自ら構成した。 そこで、本実践では、単元のねらいを、「個々ばらばらに構成してきた乗法九九を1つの表に整理し、 その表が読めるようにする」ことと、「乗法の2つの性質の理解を深める」ことと、「九九表を読む算 数的活動をもとにした発展的な学習を通して算数を学ぶ意欲を高める」とした。

このねらいを達成するために次のようなことを大切に指導した。

- ・九九表を正しく読む力をつけ、九九表を使って、答えからかけ算の式を見つけたり、かけ算の式 から答えを見つけたりする力の育成を図る。
- 「ふえ方」や「共通性」という観点から2つの性質を見出し、それがどこでもいえることを活動を 通して確かめる。
- ・「たてにたす」という観点から、「の段との段の答えをたすと(+)の段の答えになるこ と」を見つけ、そのことを活用して10の段を構成する。

3.本時(4/4)のねらい

九九表からきまり『 の段と の段の答えをたすと(+)の段の答えになること』(を授業において九九表のひみつとした。)を見つけだし、10の段の構成に活用する。 このこと

数学的な考え方 <評価規準>

「の段との段の答えをたすと(+)の段の答えになる」ことを使って、10の段を構成しよ うと考える。

4.研究の重点に関わって

(1)九九表からきまりを見つけ10の段の構成に活用する活動(発展的な学習)を位置づけた意図

九九表から『 の段と の段の答えをたすと(+)の段の答えになること』を見つけだし 10の段の構成する学習を、かけ算の単元の終末に位置づけた。この学習は次の2点から発展的な学習であるととらえた。1つは新たなきまりを見つけだすことから質的な発展といえ、また、 乗法の範囲を10の段まで広げることから量的な発展ともいえる。

この発展的な学習を位置づけた意図は、乗法は九九だけで終わるのではなくまだまだあるとい う見通しもったり、乗法にはまだまだいろいろなきまりがあるという見通しをもったりすること である。それにより、かけ算に対する興味・関心を高め、発展的に考える児童の育成につながる と考えた。

(2)どのように位置づけたか

きまりは見つけだすだけではそのよさはわからない。実際に活用することにより、きまりのよさがわかり、同時にその意味理解も深まると考える。そこで、自ら見つけたきまりを活用できる よう、次のような学習活動を仕組んだ。

- の段と の段をたせば(+ の段と の段をたせば(+
-)の段になる』ことを帰納的に見いだす。)の段になる』ことをアレイ図を使って説明する。 の段と の段をたせば(
- (きまりの代表例として『2の段と3の段の答えをたせば5の段の答えになる』ことをアレイ 図で確かめる。)
- の段と の段の答えををたせば(+)の段の答えになる』ことを使って、10の段を 構成する。

指導・援助について

- 次の2つの場面において児童のつまずきが予想されるため、次のような指導・援助を行った。
- ・段と段の答えをたてにたすことは、児童にとって初めての方法である。そこで、まず2の段と 3の段を全員が一度やった上で、それぞれがいろいろ調べる場を設定した。
- ・ひみつを活用して、10の段を構成する際に、何の段と何の段をたせば10の段になるのか見 通しがもてない児童がいると考えた。本時の前半に見いだした2の段と3の段をたすと5の段 になることなどを振り返らせ、10の段になる組み合わせを考えさせた。

(2)本時の展開

ねらい 学習 指導・援助 活動 () 発問 留意点・評価 本時は九九 1.課題を見つけだす。 ・前時の学習を 表において、 前の時間に、かけ算九九の表からひみつ見つけ 振り返り、表 の見方とそれ に伴う乗法の 答えを段ご をしたね。そのとき、表をたてに見て、2つの とにたすこ 答えをたす見方があったね。 とを理解し、 性質を確かめ その結果か かけ算九九の表で、2から3の段の答えをたし る。 らをひみつ を見いだす ひみつ見つけ て、ひみつを見つけよう。 がしやすいよ ことが課題 うに、4行分の小さい九九 2. 自分で考える。 ・2の段と3の段をたすと5の段の答えになる。・他の段と段をたすとどうなるか調べてみる。 であること をつかむ。 表を配る。 ・ひみつを帰納的 に見いだすため、 0 2の段と3の段だ けでなく、1~5 2 2 6 8 16 18 4 2のだん の段から自由に2 つ選び、一人でで 3 3 6 18 9 15 3のだん きるだけ複数の場 合について調べる 必要がある。 **4**b 5のだん の段と 3.他の段でも調べてみる。 ・いろんな場合 を取り上げ、 の段の答え ・やっぱり、2つの段をたすと別の段の答えにな っている。 その「共通性」 をたすと()の段 ・ちょうど、何の段と何の段の数字をたした段に に着目させる。 の答えにな なっている。 ることを帰 4.アレイ図でわけをいっしょに考える。 ・2×6は「2 こずつ6つ分」 のことであり、 2の段と3の段の答えをたすとどうして、5の 納的に見い だす。 段の答えになるのかアレイ図で考える。 ひみつのわ それが視覚的 けをアレイ にわかるよう 図を使って にアレイ図を で囲む。同 じように3× 6も行う。 はっきりさ せる。 $2 \times 6 (20)$ 段)と3×6 (3の段)を合 わせたものと、 5 × 6 (5 の 段)が一致し ひみつを使 5.この考え方を使って、10の段を構成する。 の段と って、進ん で10の段 このひみつを使って10の段をつくろう。 段の答えをたして **そんることに** ・4の段と6の段をたせば、10の段が作れそう (+) の段の 答えになる」こと を構成する。 だな。 気づかせる。 を使って、10の 段をつくろうと考 構成ができな ・他の段と段でもつくれるよ。 ・11の段も作ってみよう。 い児童には、 何の段と何のえる。 6.まとめる。 ・このひみつで10の段をつくれるんだ。 段をたせば、 ・この方法なら簡単にまだまだかけ算をつくるこ 10の段を作 とができそうだな。 れるのかを別 の段のときを 2の段と3の段の答えをたすと5の段の答えになることが他の段でもいえることがわかった。 このひみつを使うと、10の段もつくれること 想起させて、 考えさせる。 ・早くできた児 がわかった。九九表にはおもしろいひみつがあ 童は、11の 段をつくるよ るんだな。 うに促す。

(3)授業記録

の段と の段の答えをたして(+)の段の答えになる」ことを見いだした場面>

T:2の段を3の段の答えをたてにたすと、どうな ⁻ るでしょう。 <u>:5の段</u>の答えになりそうだ。 個人追究 1 (2の段と3の段の答えをたすと5の段の答えなることを調べる。)

C: やっぱり、5の段の答えになった。 T: じゃあ、1の段と3の段の答えをたすと、何の 段の答えになると思う。

C: 4の段の答えになる。 T:他にもあり<u>そ</u>うかな。

さらに、場合を広げて調べようとする思考を促す **}発問。**



<ひみつを帰納的に見いだしたときの板書>

個人追究 2

<u>(1~5</u>の段の中から2つの段を選んで、答えをたてにたして、何の段の答えができるか調べる。)

T:調べたことを発表してください。

: 2の段と5の段の答えをたしました。そうしたら、ちょうど7の段の答えになっていました。 : 5の段と4の段の答えをたしました。そうしたら、ちょうど9の段の答えになっていました。

: まだありそうですね。

(児童のつぶやきをひろい、さらに他の場合も位置づける。)

<u>じゃあ</u>、調べたことから、どんなひみつが見つかりましたか?

C(T男)

:5の段と4の段の5と4をたすと9になって9の段の9になって、2の段と5の段の2と5をた すと7の段の7になって、2の段と3の段の2と3をたすと5の段の5になると思います。

< の段と の段の答えをたして(+)の段の答えになる」わけを考えた場面>

T:どうして、2の段と3の段の答えをたすと5の段の答えになるんだろう? アレイ図で考えてみよう。

T:アレイ図から2の段のかけ算をみつけてください。

C:ここが2つずつに並んでいるから、

2つずつ6つ分 2×6で2の段です。

T:3の段はどこにありますか。

C:3個ずつになっているからです。 3こずつ6つ分 3×6で3

3×6で3の段です。

T:じゃあ... この中に5の段はありますか。

C:このたてのやつが5個あるから、

2の段 と3の段を合わせて、

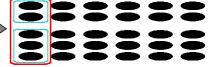
2の段 こういう 5の段だと思います。 5×6で5の段です。 5 こずつ 6 つ分





<下側に3×6の3の段がある。>

アレイ図の2の段と3の段の間を狭めたり 広げたりして、2の段と3の段がくっつくと5 の段になることを動きをつけて視覚的にみせる。



<上下をくっつけて、5×6の5の段がある。>

づかせる発問。

C:本当だ。2の段と3の段をたすと5の段になっている。

<本時の終末で、構成した10の段を九九表に位置づける場面>

T:この10の段は、九九表のどこにくっつければいいかな。

: 9の段の下だよ。

T: さらにこの下(11の段)はありそうですか。

:ある。ある。

T:じゃあ、下だけでなく、右の方(乗数が10や11の場合)もまだまだありそうですか。

C:ありそう。でも、調べないとわからない。

6.考察

(1)発展的な学習を位置づけたことに関わって

算数的活動を通して、「の段との段を答えをたすと、(+)の段の答えになる」ことを児童 が見いだすことができた。

実際に自分で調べることにより、他の場合でも同じことが言えることを児童が体験を通して見いだ すことができた。また、この活動では、全員の児童が1人で1つ以上調べることができた。 「ひみつ」見つけでは、(T男) の意見のように1つの例からだけでなく、3つの例から

の と の段の をたした答えの段になる」ことを見いだしている。

アレイ図を活用したことにより「の段との段を答えをたすと、(+)の段の答えになる」こ

との意味が理解できた。 授業記録にあるようなアレイ図を用いたことにより、1つ分の大きさを変えて見ることにより、違 うかけ算を見いだし、きまりの意味を理解することができた。

このようなアレイ図を用いた学習が成立した大きな要因としては、それまでの学習でアレイ図を用 いて乗法の意味について繰り返し学習してきたためと考える。

の段と の段を答えをたすと、(+)の段の答えになる」ことを使って、10の段を構成す ることができた。

ひみつを使って10の段を構成することができた児童…32名(100%) ひみつを使って11の段も構成することができた児童…11名(

学級の全児童が、ひみつを活用して10の段を構成することができた。このことから、帰納的に「 の段と の段の答えをたすと、(+ を図る学習は、有効であったと考える。)の段の答えになる」を見いだし、アレイ図でその意味理解

また、11の段も構成した児童が34%いることから、10の段の構成だけではもの足りず、さらに11の段の構成もしたいと意欲的に取り組む児童が多かったことがわかる。このとこから、進ん でひみつを活用して新たな乗法を構成するというねらいはおおむね達成できたと考える。

新しいきまりを見つけ,活用したことでよさを味わい,乗法への興味,関心を高めることができた。 授業後の感想では、学級児童の90パーセントの児童が「おもしろかった」「またやりたい」という 意欲が見られた。そのわけは次のようであった。

ひみつを見いだしたことにおもしろさを感じていた。...8名(25%) ひみつを活用して、10の段を構成したことにおもしろさを感じていた。…14名(43%)

九九表から見いだしたひみつそのものにおもし た"ん 10 を な 0 14 ろさを感じるよりも、それを活用してまだ構成し たことがない10の段を構成したことにおもしろ 11 主 (" 7 7 X さを感じる方が多かった。このことから、<u>改めて</u> 単にひみつを見いだして終わりではなく、見つけ たひみつは活用してこそ、そのよさを感じること to カリ 3 な 21 2 0 (7° 3 1) 21 11 ができることがわかった。 な かり to す 7" 6

この感想を書いたS女は、かけ算の学習を行う 以前に、九九の暗記ができていた児童である。そ のため、かけ算は9の段で終わりであるという意 た 1) た 0 ŧ 12 13 14 2 し」 lt U 識があったが、本時の学習を通して、「かけ算も そのひみつもまだまだたくさんありそう」である 3 LI H た ことに気づくことができ、さらに学習を進めていきたいという意欲につながった。 7" 21 9 7 11 0 たしり 1511 しナ d 3 九九の暗記を重視した学習や練習問題だけでは

(#

このような気づきや意欲はなかなか生まれてこないと考える。 <S子の授業後の感想>

このことから、単元の終末において、このような発展的な学習を仕組むことは、児童の気づきを促し、次への学習の意欲につながることがわかった。

(2)改善に向けて

、発展的な学習の効果は、すぐに現れてくるものではないと考える。このような発展的な学習を行うことで、どれぐらい効果的に基礎・基本の定着を図れるかについて研究を進める必要がある。今回は、 九九表を活用した発展的な学習を2年生で試みた。九九表には、その他の乗法の計算法則や数の規則 性も潜んでいる。今後、さらに教材開発を進めていきたい。